

明治実業家列伝

プロローグ

仙台市博物館

市史編さん室長 菅野 正道氏

歴史の転換点

「東日本大震災は、日本の社会にとって大きな転換点になるだろう」とさまざまな場面で言われています。しかし、日本全体として、具体的に何がどのように変わっていくのか、震災後半年近く経ってもまだ見通しが立っていないようにも見えますが・・・

日本の歴史において、大きな転換点はいくつか存在します。一番近い所では昭和二十二年（一九四五年）の第二次世界大戦の敗戦でしょう。戦後のさまざまな制度改革により、日本の社会や人々の意識が大きく変化したことは、言うまでもありません。

そして、それを遡ること約八十年前の明治



明治時代後期の芭蕉の辻。左に見える江戸時代の建物は、仙台空襲で焼失するまで商店や金融機関の営業所として用いられた。右の洋式建築は明治36(1903)年に建てられた七十七銀行で、後に日本銀行仙台支店となった(仙台市博物館所蔵)。

維新は、長く続いた封建制社会が幕を閉じ、政治や社会、産業などの近代化の出発点となった非常に大きな転換点でした。

当然、明治維新に伴う社会の変革は、仙台の地にも大きな変動をもたらしました。とくに仙台の場合、封建社会から近代社会へとこの転換に加え、明治維新に伴う戊辰戦争の敗北が地域に大きなダメージを与えました。仙台の近代は、茨の道からスタートしたと言ってもよい状況だったのです。

石巻と仙台

実は明治初期、新政府の一部には、仙台ではなく石巻を東北開発の拠点にしようとする動きがあったのです。

例えば明治三(一八七〇)年二月、政府は石巻商社を設立(同年十一月に三陸商社と改称)、東北地方の金融取引や各種物産取引を総合的に取り扱わせようとした。石巻を東北経済の一大拠点にしようとする構想だったのです。同年三月に経済政策を担当する民部省通商司が出張所を石巻に開設したのも、これを後押しするものでした。

また、明治四年四月、東北の軍事拠点として東山道鎮台が組織された際に、その本営が置かれたのも石巻だったのです。

こうした政策の背景には、古くからの城下町である仙台ではなく、大きな港を有する石巻を新時代の東北の拠点として育成しようとする意思があったと考えられます。

しかし結果的に、この動きは挫折します。石巻商社はその構成員の多くが仙台の豪商たちでしたが、彼らが活動の本拠を仙台から移すことはありませんでした。民部省の出張所は半年を経ないうちに廃止され、東山道鎮台の本営も四カ月後には東北鎮台本営と改称され、仙台へ移ります。後の陸軍第二師団です。

仙台の近代化

では、なぜ石巻ではなく仙台だったのでしょうか。最大の理由は交通にあります。

東北地方の幹線路は、海沿いに北上するものと内陸を北上するものが仙台付近で合流し、そして再び海沿いと内陸の道に分かれて北上します。ちょうど仙台付近は陸路がX字状に交差する交通の要衝なのです。さらに加えれば、東北地方で東西の幅幅がもつとも狭いのが仙台付近であり、したがって、東北地方を横断する重要な交通路は仙台を基点にして形成されるのです。

石巻は大きな港があるという点での将来性には大きなものがありましたが、陸上交通の面では決定的に仙台に劣ったのです。

こうして仙台は、現在に至るまで東北の中心地としての特質を失うことなく、近代化のレールを走り続けることになりました。

この仙台の近代化は、多くの人の努力の積み重ねによって進んだことは言うまでもありません。しかし、これまで仙台の近代史が語られる際には、政治家や文化人、教育者などが注目されがちで、経済人や実業家にスポットが当てられることは少なかつたように感じます。

一〇〇万都市仙台を知るためにも、これからの復興を目指すためにも、仙台の近代化を支えた経済人、実業家たちが時代の動きにどう対処していったのかを、毎号一人ずつご紹介したいと考えています。

仙台市史

最新刊
好評発売中

通史編8 現代1

戦災からの復興—
歴史的な大変化を遂げた、仙台の戦後二十余年のあゆみ
◆A5判 599頁 オールカラー ◆定価3000円(本体2858円)

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館/盛岡城県教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地 TEL.022-225-3074

昭和20年代後半の東一番丁

